

4月5日 (土)

ウィーン旧市街



ペスト塔

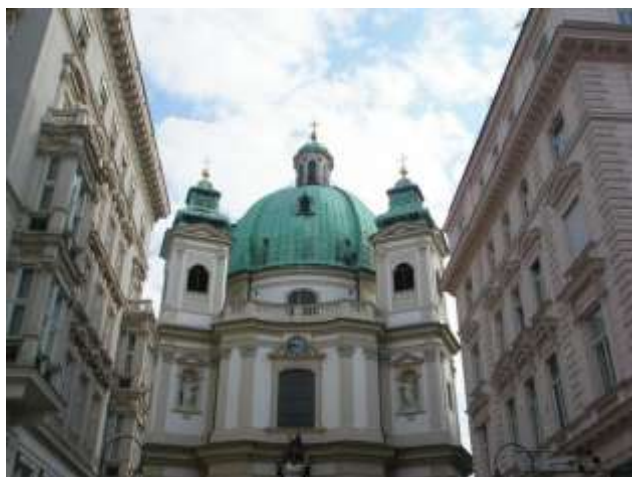
1350年以降、それまでの権力構造が崩壊し、権威が失墜した。その裏には、14世紀～17世紀のペスト大流行が関係しているとも言われる。ペストの大流行は貴族や神父といった権力者ですら死ぬことを人々に知らしめた。

当時絶大な権力を誇ったハプスブルク家は、ペストが沈静化した理由を自らの権力にうまく当てはめ、神権政治を行ったのである。

ペスト記念柱

グラーベン通りに建つ。グラーベンとは“濠”という意味。旧市街のさらに中心にはウィーンで最も古い市街地があった。この通りは、この市街地を囲んでいた濠があったことに由来する。

ペスト塔は17世紀にウィーンを襲ったペストの流行が収まったのを記念して、皇帝レオポルト1世によって建てられた。



ペーター教会

グラーベン通りの少し奥に建つバロック様式の教会。バロックは17世紀にはやった貴族文化を象徴する様式であり、現在も旧市街地の景観の重要な構成要素になっている。



王宮

ハプスブルグ家の本拠地となってきた王宮。市街地の中でもひととき大きな建造物で、帝国の繁栄を今に伝えている。

国会議事堂

旧市街を囲むリンク環状道路沿いには国会議事堂をはじめ、市庁舎やウィーン大学などが建ち並ぶ。

建築家ハンゼンによって19世紀後半に建てられた。



楽友協会

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の本拠地。毎年1月1日に行われるニューイヤーコンサートの舞台としても有名。





ウィーン分離派会館

クリムトやホフマンなどの芸術家による分離派の展示館。

カールスプラッツ駅

ウィーン市内の地下鉄の主要駅のひとつで、建築家オットー・ヴァーグナーの設計により、1899年に完成。ほかの駅にはないオシャレで華やかな装飾が施されている。同じ建物が二つ向かい合っているのも特徴的である。



フォルクス庭園

市民の憩いの場として、リンク環状通りに19世紀後半に造営された。

写真では小さくなってしまったが、奥に見える白い像がフランツ・ヨーゼフ皇帝の後、エリーザベトの坐像。帝国の象徴的な空間がつくられていた。

旧市街 フライシュマルクトの街並み

その名前は、中世に肉(フライシュ)の市場(マルクト)があったことに由来する。

向き合う建物の間にバットレスが架け渡された狭い路地の様子には、中世的雰囲気がある。



ナッシュマルクト

ウィーン最古の生鮮食品市場。野菜、肉、パン、チーズなどの食料品を中心にして、世界各国の食材が手に入る。店は路上まで広がり、活気にあふれている。



ナッシュマルクト

ウィーン川に沿って1kmほどにわたって市場が続いている。もともとの地は、ウィーン市街地の外側にあつて、市門(ケルンテン門)の外側にできた市場に由来する。しだいにトルコ人やインド人などが店を開くようになった。

野菜や果物はもちろん、お惣菜のようなものやケバブなども売っていてとても賑わっている。